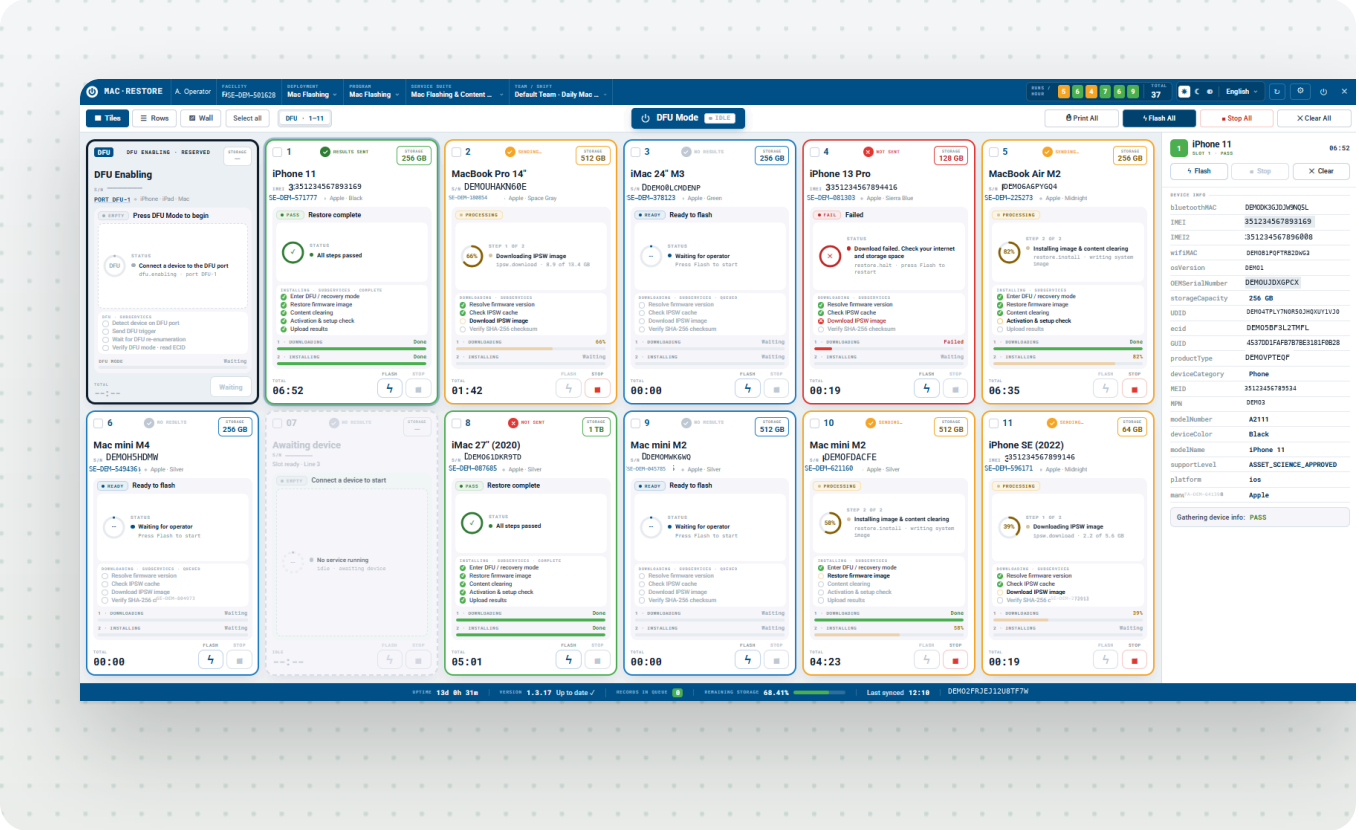
MAC RESTORE

Apple デバイスの復元・フラッシュ・消去を現場規模で。

Mac ステーション上で iOS と macOS の復元・フラッシュを実行します。Mac と iOS デバイスを並行して処理し、消去は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得、すべての個体が誰でも検証できる証明書とともに出荷されます。



対象読者
デバイス処理事業者の運用・IT・コンプライアンス責任者

プラットフォーム
iPhone · iPad · Mac（macOS ステーション上）

ウェブ
assetscience.com

概要一覧

購入検討者が必ず尋ねる8つの質問。

Mac Restore は復元と消去の製品です。オペレーティングシステムを再インストールしてデバイスを消去しますが、診断スイートは実行しません。以下の回答はその点を率直に述べています。

証明書 — はい

デバイスごとの証明書をPDFと公開Webページの両方で発行します。verified.assetscience.com/verify でシリアル番号または IMEI から検索でき、PDFの一括生成と CSV エクスポートに対応します。

ADISA 認証取得済み — AAL 4

認証取得範囲： **ADISA 保証レベル 4**。ADISA Research Centre による Product Claims Test で独立して試験されています。

消去の種類 — NIST 800-88

ファームウェア復元を伴うコンテンツ消去。 オペレーティングシステムをクリーンイメージから再インストールし、結果を検証したうえで、使用した方式をレコードに記載します。

ガイド付きユーザーテスト — いいえ

ガイドするものはありません。オペレーターはデバイスを接続して Flash を押し、Mac で必要な場合に DFU のプロンプトへ応答するだけです。残りは自動です。

テストの種類 — 該当なし

機能テストはありません。Mac Restore はアクティベーションとセットアップの状態を確認し、インストールされたイメージを検証します。テストのレコードが必要な場合は Pro-Diagnostic ステーションと組み合わせてください。

主な機能 — 4

並行処理 Mac と iOS デバイスの **DFU とリカバリの** 処理、 **3種類の現場ビュー** で同じ実行を表示し、失敗はその理由をカード上に明示します。

対応プラットフォーム — iOS · macOS

iPhone、iPad、MacBook、iMac、Mac mini を復元します。macOS ステーション上で動作し、専用ハードウェアは不要です。

データ分析と API — REST

すべての実行はデバイスレコードとして Control Center に記録されます。識別子、方式、結果、オペレーターを含み、REST API と CSV・Excel エクスポートから参照できます。

1回の実行、6ステップ、すべてのデバイスで

STEP 1
DFU／リカバリへ移行
復元に必要なモードにデバイスを移行します。

STEP 2
ファームウェア復元
クリーンイメージをダウンロードしてインストールします。

STEP 3
コンテンツ消去
再インストールとともにユーザーデータを削除します。

STEP 4
アクティベーションとセットアップ
状態を確認して記録します。

STEP 5
SHA-256 検証
インストールされたイメージをチェックサムと照合します。

STEP 6
結果のアップロード
レコードを Control Center に送信します。

当社が行わないこと。 ロックは報告するのみで、解除も回避も行いません。アクティベーションロックまたは Find My が有効なデバイスはロック状態として記録され、お客様のワークフローに従って振り分けられます。

機能

接続されたデバイスは、オペレーターが各ステップに付き添うことなく、復元パイプライン全体を通過します。

DFU へ移行し、ファームウェアを復元し、コンテンツを消去し、アクティベーションとセットアップを確認し、検証して結果をアップロードします。Mac と iOS デバイスは同じ作業台で並行して動作します。

Mac Restore は Apple ハードウェアの復元のために開発されました。対象は **MacBook、iMac、Mac mini、iPhone、iPad**です。デバイスはリカバリモードで処理されます。オペレーティングシステムはクリーンイメージから再インストールされ、インストール結果は SHA-256 チェックサムと照合され、結果はデバイスごとに1件のレコードとしてアップロードされます。

クリーンなオペレーティングシステムを必要とする Apple デバイスには Mac も含まれますが、Pro-Diagnostic Desktop ステーションでは Mac を再インストールできません。Pro-Diagnostic Desktop ステーションでの iOS フラッシュは iPhone と iPad を対象とします。Mac Restore は Mac 上で動作し、Mac も対象に含みます。

Pro-Diagnostic PC & Mac が Mac を消去することはありません。同製品はマシンを診断し、Mac の消去は Mac Restore が行います。両者は1つの Control Center を共有するため、一方のステーションでテストし別のステーションで復元した個体も履歴は1つにまとまります。

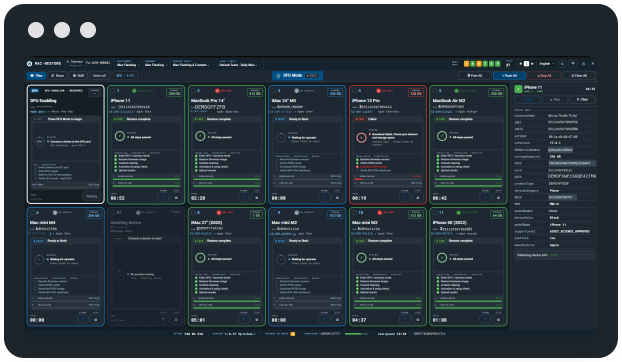


図1 Mac Restore → タイル表示、ダークモード。11スロットを同時に表示し、それぞれが現在どのステップにあるかを示します。右側にはデバイス情報レールがあります。表示されている識別子は架空のものです。

- **Mac と iOS デバイスを並行処理。** MacBook Pro と iPhone 13 Pro が隣接するスロットを占有し、それぞれのパイプラインを実行します。
- **失敗はカード上に理由を明示。** ダウンロードエラーや復元エラーは、ログファイルではなくタイル上に次のアクションとともに表示されます。
- **スロットごとの2段階進捗表示。** ダウンロードとインストールを別々に表示し、進捗率と実行中のサブステップを示します。
- **スロットごとの経過時間と合計時間のストリップ。** 監督者は各個体に要した時間と、実行の経過時間を把握できます。

予約済みスロット

DFU 有効化

専用ポートが Mac を DFU モードに移行させます。DFU ポートでの検出、トリガー送信、再列挙の待機、ECID の読み取りまでを実行します。オペレーターはボタンを1つ押すだけです。

ファームウェア

イメージキャッシュ

ステーションはファームウェアバージョンを解決し、ローカルのイメージキャッシュを確認して、不足分のみをダウンロードします。残りのストレージ容量はステータスバーに表示されます。

作業台の操作

Flash All · Stop All · Print All

ツールバーから作業台全体の開始・停止・印刷を行えます。スロットの一部を選択して、それらだけを操作することもできます。

ステーションでの使用感

同じ現場を3つのビューで表示します。4台の作業台と48台の作業台では課題が異なるためです。

タイル表示は各スロットにステップのチェックリストを表示します。行表示は現場をスロットごとに1行へ圧縮します。ウォール表示は次に人の対応が必要なものを基準にすべてを並べ替えます。

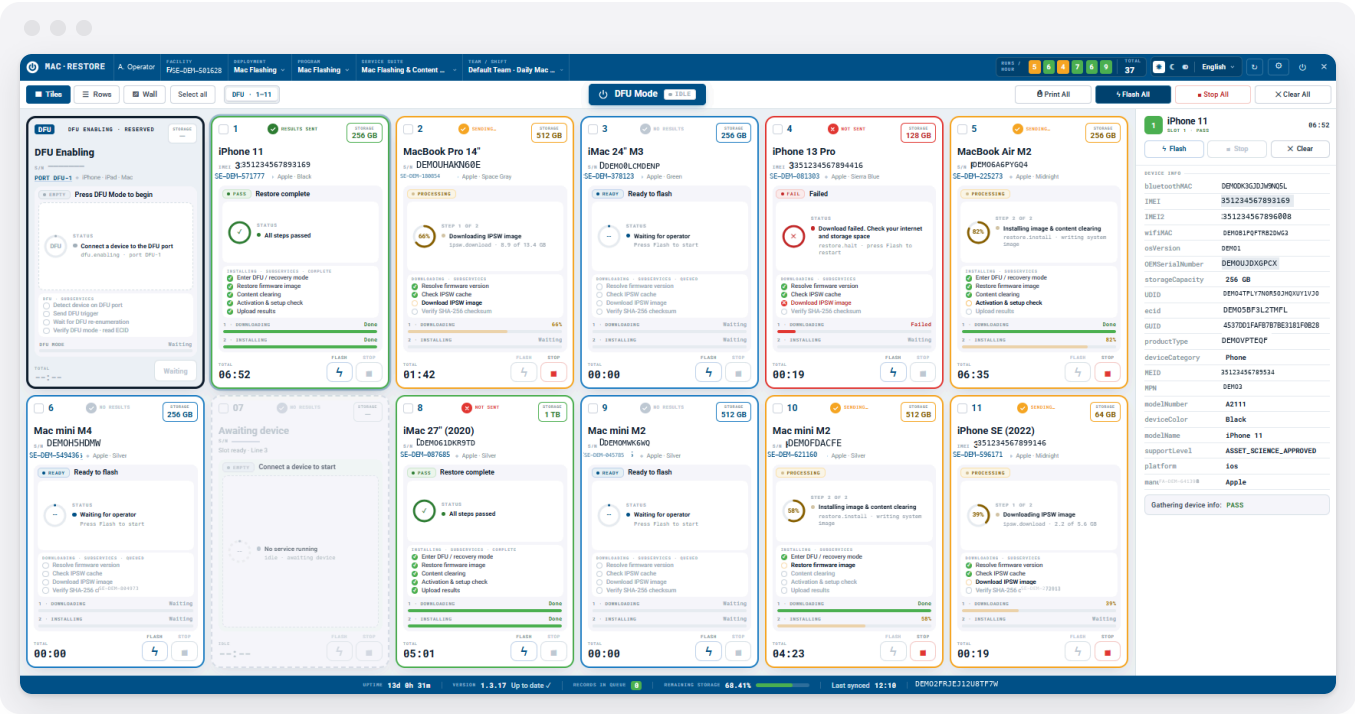


図2　Mac Restore → タイル表示、実行中。Mac と iPhone が混在して並行復元され、スロットごとの進捗と経過時間が表示されています。スロット4はダウンロードに失敗し、その旨と Flash を押して再開する指示がタイル上に表示されています。

タイル表示 はオペレーター向けのビューです。各スロットにはデバイス名、シリアル番号と IMEI、ストレージ容量、平易な言葉によるステータス行、現在のステップを強調表示した6ステップのチェックリスト、2本の進捗バーが表示されます。右側のレールには選択したデバイスの識別子として IMEI、UDID、ECID、モデル番号、MPN、OS バージョン、ストレージが表示されます。

色はすべてのビューで状態を表します。緑は完了・送信済み、黄は処理中、青は準備完了でオペレーター待ち、赤は失敗です。空きスロットは破線で描画され、デバイス待機中と表示されます。

下部のステータスバーには **稼働時間、バージョン、キュー内のレコード数、残りストレージ、最終同期**が表示されます。まだアップロードできないレコードはキューで待機し、ネットワークが復旧した時点で送信されるため、ステーションは通信障害中も稼働を続け、データが失われることはありません。

- **1時間あたりの実行数** とその日の合計がヘッダーに表示され、シフト全体を通して確認できます。
- **すべて選択** するか、スロットを選んでから Flash、Stop、Clear を実行します。
- **サインイン画面は5言語対応**：英語、スペイン語、フランス語、オランダ語、日本語。

行表示とウォール表示

スロットごとに1行、または次に対応すべき担当順に並べ替え。

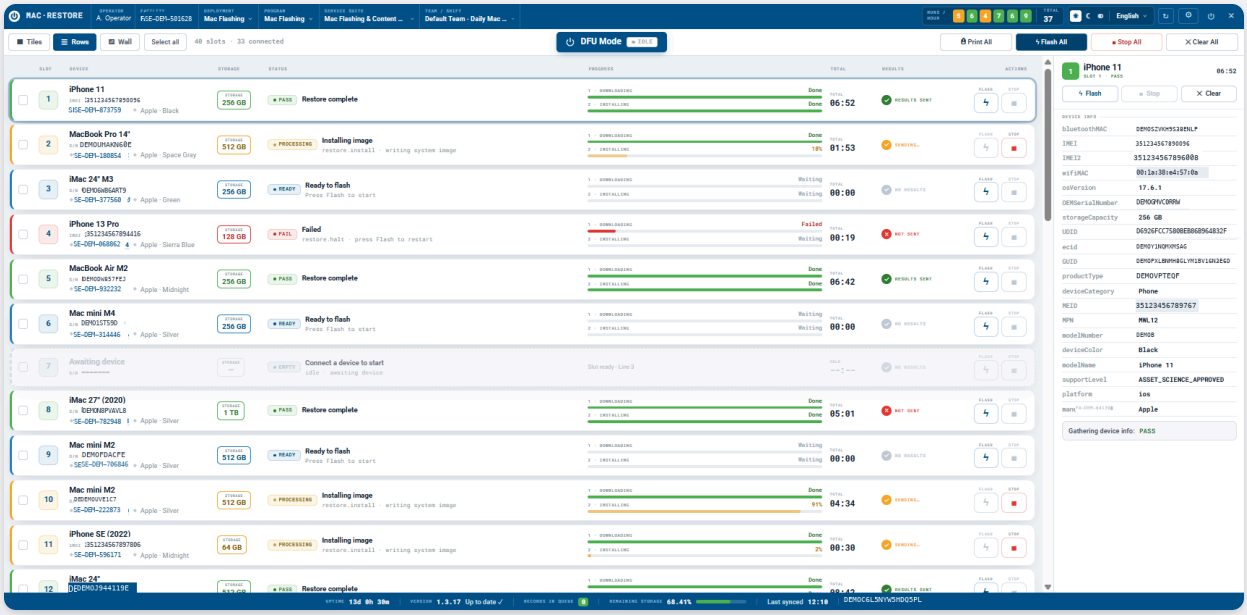


図3 Mac Restore → 行表示、ライトモード。48スロットのうち33台が接続され、スロットごとに1行で2段階の進捗バー、合計時間、結果送信状態を表示します。作業台が満杯のときに監督者が求める密度です。

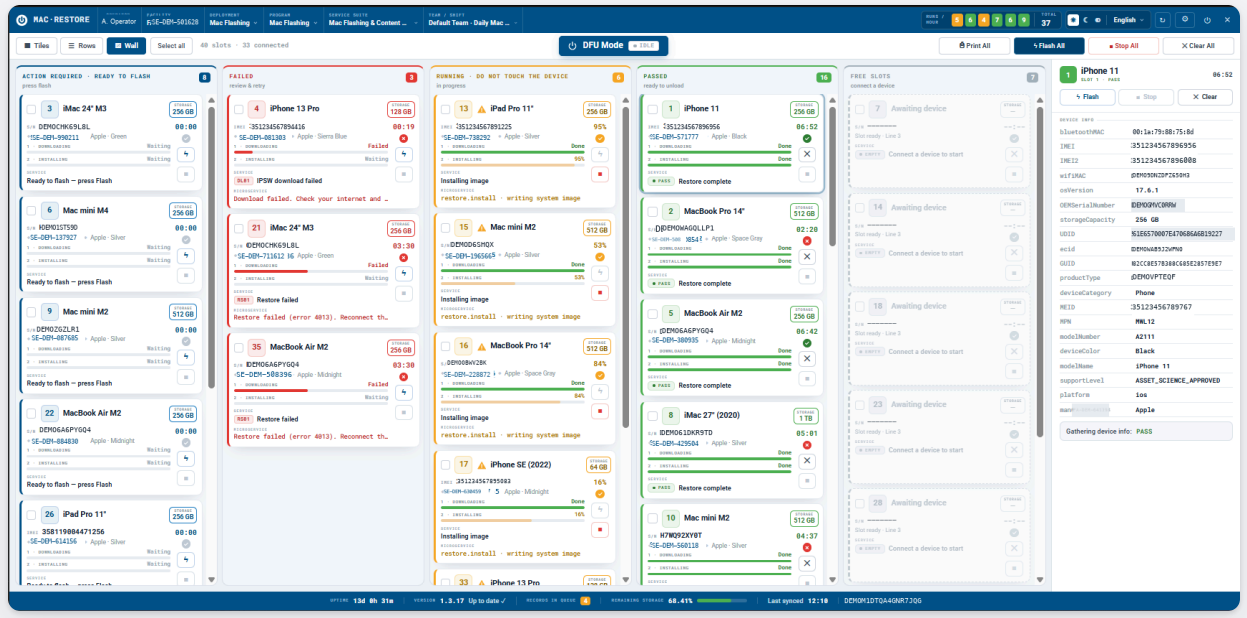


図4 Mac Restore → ウォール表示。作業台を5列に分類します：要対応、失敗、実行中、合格、空きスロット。実行中の列には「デバイスに触れないでください」というラベルが付くため、新任のオペレーターでもケーブルに手を伸ばす前に復元中の個体を判別できます。失敗は自ら理由を示し、ここではダウンロードエラーと復元エラーが表示されています。

消去と認証

監査担当者に提出できる消去。

消去は想定ではなく検証され、使用した方式はレコードに記載されます。証明書はデバイス単位で公開されるため、購入検討者はバッチ単位の主張を信用するのではなく、特定の個体を確認できます。

AAL 4
ADISA 保証レベル
Product Claims Test、ADISA Research Centre

800-88
NIST SP 800-88 準拠
レポートに方式を明記

1
デバイスごとの証明書
PDFと公開Webページ

認証。 Pro-Diagnostics と MacRestore は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しており、ADISA Research Centre による Product Claims Test で独立して試験されています。認証はこれらの製品に適用されます。Pro-Diagnostic PC & Mac は認証を取得しておらず、同製品が消去するコンピューターについて認証消去の主張は一切行いません。

方式。 デバイスを消去し、オペレーティングシステムをクリーンイメージから再インストールします。コンテンツ消去の方式は証明書に記載され、インストールされたイメージは結果のアップロード前に SHA-256 チェックサムと照合されます。完了しなかった復元は失敗として記録され、合格として記録されることはありません。

公開検索。 アカウントがなくても誰でもデバイスを確認できます。verified.assetscience.com/verify でシリアル番号、IMEI、MEID、GUID をスキャンまたは入力してください。処理されていないデバイスは、安心させるような空白ではなく Not Found と返されます。

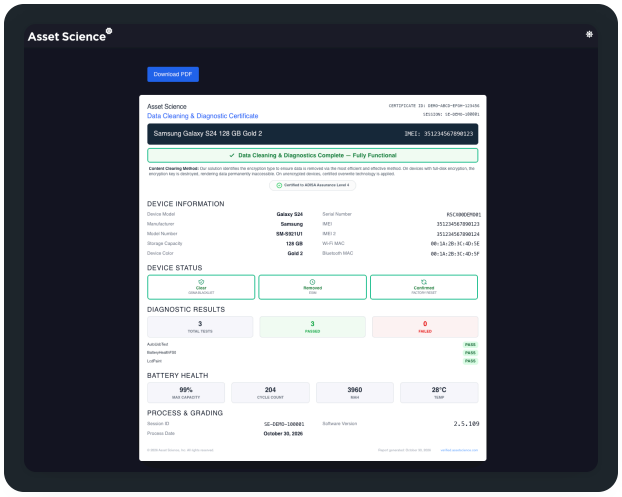


図5 verified.assetscience.com → 証明書。公開証明書ページには、デバイス情報、コンテンツ消去の方式、ADISA 保証レベル 4 のマーク、デバイスのステータス、PDFダウンロードボタンが表示されます。表示されているのはサンプルレコードです。

公開範囲はお客様が決定

公開設定は **顧客アカウント単位** で Control Center から行います。公開検索、公開証明書リンク、公開PDFダウンロードは、それぞれ独立した3つのスイッチです。

バッチ単位のエビデンス

検索画面からスキャンしたバッチを CSV にエクスポートし、 **最大30,000件の識別子を含む CSV**を検索して、証明書PDFを一括生成できます。証明書リンクはエクスポートしたレポートにも含まれます。

レポートと CONTROL CENTER

結果は他のすべてのデータとともに Control Center に集約されます。

ステーションは作業台の他の機器と同じ Control Center テナントにサインインします。プログラムは Web プラットフォーム上で一度定義すれば、すべての Mac Restore ステーションがそれに従います。

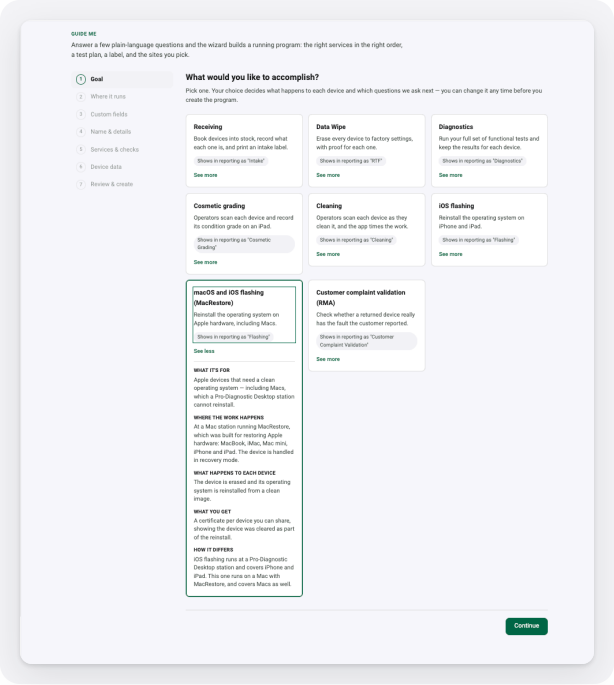


図6 Control Center → Guide Me → 構成ウィザード。プログラムは平易な言葉による目標から始まります。macOS および iOS フラッシュ（MacRestore）のカードが展開され、その用途、作業が行われる場所、得られる成果が表示されています。

1つのプログラムをすべてのステーションへ。 Control Center のウィザードは、目標を稼働中のプログラムへと変換します。適切なサービスを適切な順序で並べ、ラベルと、実行対象の施設・デプロイメントを設定します。Mac Restore はサインイン時にプログラムを読み込みます。本資料のすべてのスクリーンショットのヘッダーに施設、デプロイメント、プログラム、チームが表示されているのはそのためです。

デバイスごとに1件のレコード。 各実行は個体の識別子（シリアル番号、IMEI、UDID、ECID、モデル番号、MPN、OS バージョン、ストレージ）に紐付けて保存されます。レコードにはコンテンツ消去の方式、結果、オペレーター、時刻が含まれ、レポート上では Flashing として表示されます。

- **個体ごとの履歴** を Device History で確認でき、公開設定が有効であれば公開証明書にもワンクリックでアクセスできます。
- **オペレーターの監査とパフォーマンスダッシュボード**により、UPH をオペレーター別・作業台別に追跡できます。
- **定期レポート** をご希望の頻度でメール送信し、CSV と Excel への完全なエクスポートにも対応します。
- **REST API** によるデータの入出力に対応し、ライセンスキーはテナント、施設、個別のデプロイメント単位でスコープを設定できます。

1

定義

Control Center で macOS および iOS フラッシュの目標を選び、実行場所を指定します。

2

サインイン

Mac ステーションがサインインし、そのデプロイメント向けのプログラムを読み込みます。

3

復元

デバイスを並行してフラッシュ・消去します。ネットワークが切断された場合、結果はキューに保持されます。

4

レポート

レコード、証明書、エクスポートをチームと API から利用できます。

認証

社外の誰も読めないレコードは、単なる主張にすぎません。

Mac Restore が処理したすべてのデバイスは、シリアル番号または IMEI で公開ページから検索できます。購入検討者、お客様の顧客の監査担当者、最終的にそのデバイスを所有する人も検索できます。その背後にある消去は ADISA 保証レベル 4 の認証を取得しています。

お手持ちの Mac と iPhone でお試しください。

無料トライアルを開始し、お客様の施設の Mac 上で、お客様自身の Control Center テナントに対して Mac Restore を実行してください。専用ハードウェアは不要です。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは製品版ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、オペレーター名、顧客データは架空のものです。Apple、Mac、MacBook、iMac、Mac mini、iPhone、iPad は Apple Inc. の商標です。製品名および商標は各権利者に帰属します。